

美作国府跡No2

発掘 美作国府跡



美作国府跡

★史跡美作国分寺跡とその特徴 2009.9.2取材 ★国府台寺(こうだいじ)2010.9.7取材
★美作總社宮2009.1取材 ★平成21年度現地説明会(岡山県古代吉備文化財センターHP)

美作国は、和銅6年(713)に備前国から北部6郡(英多(田)・勝田・苫田・久米・大庭・真嶋郡)を分けて新たに誕生しました。美作国府は津山盆地北西側の標高約120mの台地上にあたる、津山市山北・総社・小原周辺に置かれました。

都市計画道路大谷一宮線街路改築工事に先立って、岡山県教育委員会・岡山県古代吉備文化財センターでは、地元の方々のご理解とご協力をいただきながら、この路線内にあたる美作国府跡の発掘調査を平成18～22年度に行いました。



美作国府の想像図

『わたしたちの津山の歴史』津山市教育委員会 1998 一部改変



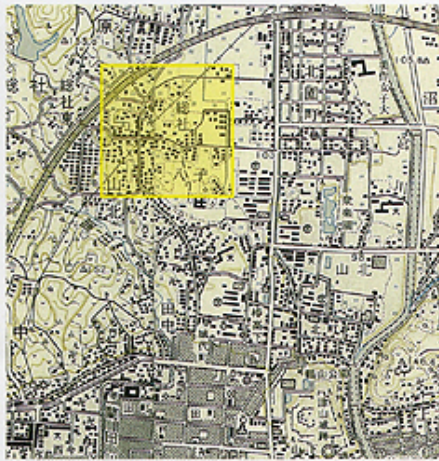
国府台寺の遠景

美作国府について

国府とは、今から約800～1,300年前の奈良～平安時代に、全国60あまりに分かれていた「国」ごとに置かれた政治・経済・文化の中心的な施設です。

中国道の建設に伴い、岡山県教育委員会が実施した昭和45～47年の発掘調査では、国司の職名である「少目」と記された墨書土器が出土し、都から派遣された国司が滞在した「国司館」と思われる施設が見つかりました。

また、津山市教育委員会の昭和61年以降の発掘調査では、政治や儀式・饗宴を行っていた「政庁」と見られる建物が確認されました。政庁の建物配置は東に正面を向けて、正殿を中心に、南北に脇殿を置く「品字形」が想定されています。正殿の位置はわかりませんが、現在の国府台寺付近にあったと考えられています。



美作国府跡の位置 (1/25,000)

国土地理院発行 1/25,000 地形図「津山東部」、
「津山西部」を複製・加筆
(黄色枠は美作国府跡推定範囲)

美作国府跡は、津山盆地北西側の約600m四方の範囲にあったと推定されています。発掘調査はその推定範囲内を南北に通る予定路線のうち、山北地区を北から幸畑・高橋上・高橋谷の合計3つの調査区に分けて調査を行っています。

幸畑・高橋上調査区は安定した台地上にあたり、高橋谷調査区は北西から南西方向に下るせまい谷部に位置します。

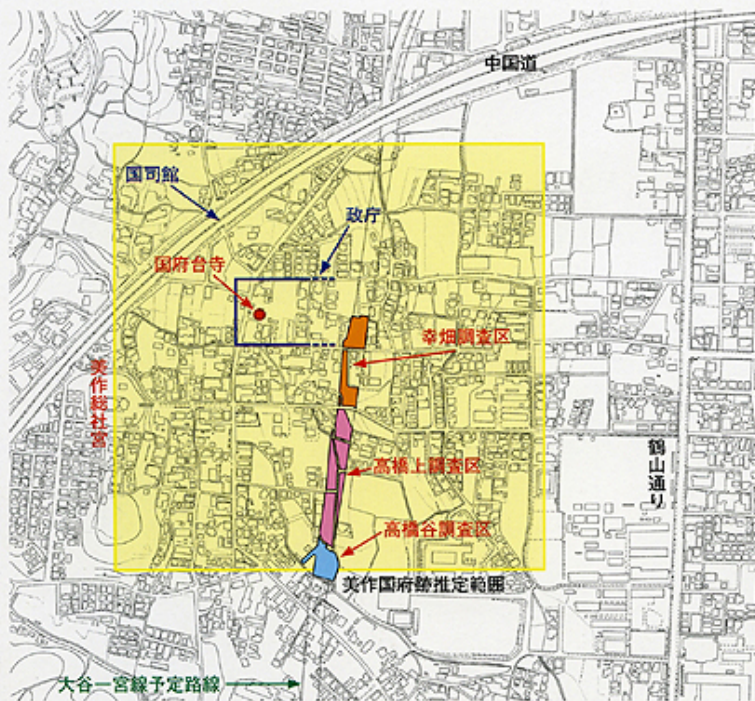


▲ 現地説明会



▲ 幸畑調査区

<高橋上調査区>



美作国府跡の周辺と発掘調査区 (1/8,000)



▲ 高橋上調査区



▲ 高橋谷調査区

美作国府跡は、津山盆地北西側の約600m四方の範囲にあったと推定されています。発掘調査はその推定範囲内を南北に通る予定路線のうち、山北地区を北から幸畑・高橋上・高橋谷の合計3つの調査区に分けて調査を行いました。

幸畑・高橋上調査区は安定した台地上にあたり、高橋谷調査区は北西から南西方向に下るせまい谷部に位置します。



高橋谷調査区の建物・井戸・大溝（西から・空撮）

建物

幸畑・高橋上調査区では、奈良～鎌倉時代の建物が見つかっています。特に、奈良～平安時代初めの大型建物は官舎と考えられ注目されます。高橋谷調査区では、平安時代の終わり～鎌倉時代の建物が見つかりました。

平安時代の終わりになると、国司は地方に赴任しないで、実際の仕事は、地元の豪族から選ばれた役人(在庁官人)があたりました。

こうした国の治め方は、奈良時代から続いた国府のあり方にも影響をあたえ、多くの施設もその性格が変わったり、再整備がなされたりしたようです。

【写真・文】岡山県古代吉備文化財センター平成20年3月発行「発掘美作国府跡2008」より
抜粋(許可済み)

管理用